革新的設計生産技術　自己点検結果

#	審査の視点（平均点） 外部専門家のコメント	対応状況	理由
1	研究開発の内容の重要性、妥当性（2点） ①「ものづくり」を上流・下流の両方向から見直し、産学の力を結集して再構築する試みは貴重。ニーズの創造と顕在化が重要であり、デライト設計の考え方は良い。「保守」が重要な分野もあり、「取組範囲の明確化」あるいは「範囲の拡大」を考えても良い。 ②高付加価値製品の設計手法の確立は我が国にとって急務であり、実施する価値は高い。 ③適切である。取り組む具体的目標設定はそれぞれ技術的チャレンジがある。しかし、機能創出優先のモノ指向の開発計画に見える。	①反映済 ②－ ③反映済	①、③本プログラムの取組範囲（出口）は、「製品」だけでなく、保守等の「サービス」も対象であることを明確化するため、「1. 意義・目標等」、「2. 研究開発の内容」、「（別紙）研究開発計画内容」にサービス等の文言を明記。ご指摘のとおりの視点を持って推進していく。
2	実用化・事業化への戦略性（1.7点） ①デライト設計を具体化するアイデア・取組が現状では明確になっておらず、ビッグデータの活用と言ったような皆が考えている範囲に留まらないような努力が今後とも必要と感じる。また、地域の特殊性も考慮する必要があり、「どの地域を」「何の分野で」「どのように」強化していくのかを具体化していく必要がある。 ②出口戦略を明確にすべき。企業主導型、公的研究開発機関主導型を取り入れている点は評価できる。海外展開を前提とした戦略があると尚良い。	①反映済 ②反映済	①公募時の提案書に研究開発成果の事業化シナリオの記載を求める予定である。また、実施段階においても採択された研究開発テーマごとに、国内外の市場に展開していくために必要な事業化シナリオの検討を引き続き行う旨を、「2. 研究開発の内容　(3)研究開発の分類」に明記。 ②同上。「6. 出口戦略」に、地域企業発による新産業化の好事例を日本全体へ横展開していくという出口戦略を追記。また、オリンピック・パラリンピックを契機とした海外に向けたPR活動を行う。
3	組織間連携（産産、産学、府省）の有効性（1点） ①ものづくりの上流と下流を繋ぎ、組織間の連携を促すコンセプトであり、良い取組みと感じが、コンセプトを具体化する施策や仕組みが明確になっていない。先端研究の成果が現場にスムーズに導入される仕組みが自ら構築されるような開発が望まれる。 ②経済産業省、文部科学省の諸プロジェクトを含む総合的戦略の必要性を感じる。産学官連携という観点からは従来の域を出ていない印象。 ③目標に「ユーザ参加型」のイノベーションを歌っているが、具体的方策が見えにくい。イノベーションスタイルにおいても、ユーザ参加による価値共創を保証する設計生産にならず、設計方式の開発、生産手法の開発に留まる可能性が高く見える。	①反映無 ②反映無 ③反映無	①「1. 意義・目標等　(3) 目標・狙い」に記載のとおり、成果が現場にスムーズに導入される仕組みとして、設計から試作、ユーザーの使用、改善点のフィードバック、というサイクルを自発的に回せるイノベーションスタイルを組むこととしている。 ②「2. 研究開発の内容　(1) 研究開発の概要」に記載の通り、文部科学省及び経済産業省の施策と役割分担しながら、プログラムを実施する予定である。また産学官連携という観点では、産学官に加えて、「消費者・ユーザー」の参加を得て高付加価値を探索していく体制を組むこととしている。 ③ご指摘のとおりの視点を持って、各イノベーションスタイルごとに推進していく。
4	その他特記事項 ①現時点でのニーズだけに囚われた開発とならないよう、チャレンジングな取組も残せる仕組みを作ってほしい。また、大学等との協力により原理原則も把握し、将来の応用・発展が可能な成果としてほしい。 ③スマイルカーブの両端と、高機能創成技術が必須という議論はここ10年繰り返してきた。本提案も高機能試作品を作るニッチ産業が育成目標になりかねない。ユーザが意識する（あるいは意識しない）要求仕様の迅速な掴み、仕様に適合する機能要素の短時間生産、環境変動に対応できるシステムとしてのユーザが利用する製品、その後のユーザのPDCAサイクルへの機能提供側の対応、といった機能提供側と機能利用側のPDCAサイクルが多重に関連し回るシステムが保証されることを期待。	①反映無 ③反映無	①「2. 研究開発の内容　(3)研究開発の分類」に記載の通り、カテゴリⅠ：基礎的研究開発において、将来の応用・発展が可能で新たなものづくりを牽引するようなブレークスルー技術になり得る研究開発（現象の解明等を含む）についても取り組むこととしている。 ③ご指摘のとおりの視点を持って、研究開発を推進していく。

※点数は以下を基準にしています。
　０点：改善が必要なもの
　１点：妥当であるもの
　２点：優れているもの